

# 第1学年 国語科学習指導案

対 象 第1学年1組 児童19名  
指導者 寺前 愛  
対 象 第1学年2組 児童21名  
指導者 陳 爽音

- 1 単元名 「ともだちと はなして、おはなしを かこう」  
(教材名 『どんな おはなしが できるかな』)

## 2 単元の目標

- ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。
- ◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。
- 句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
- 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。
- 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ②文の中における主語と述語との関係に気付いている。	①「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 ②「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 ③「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。	① 物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。

## 4 単元設定の理由

### (1) 児童の実態

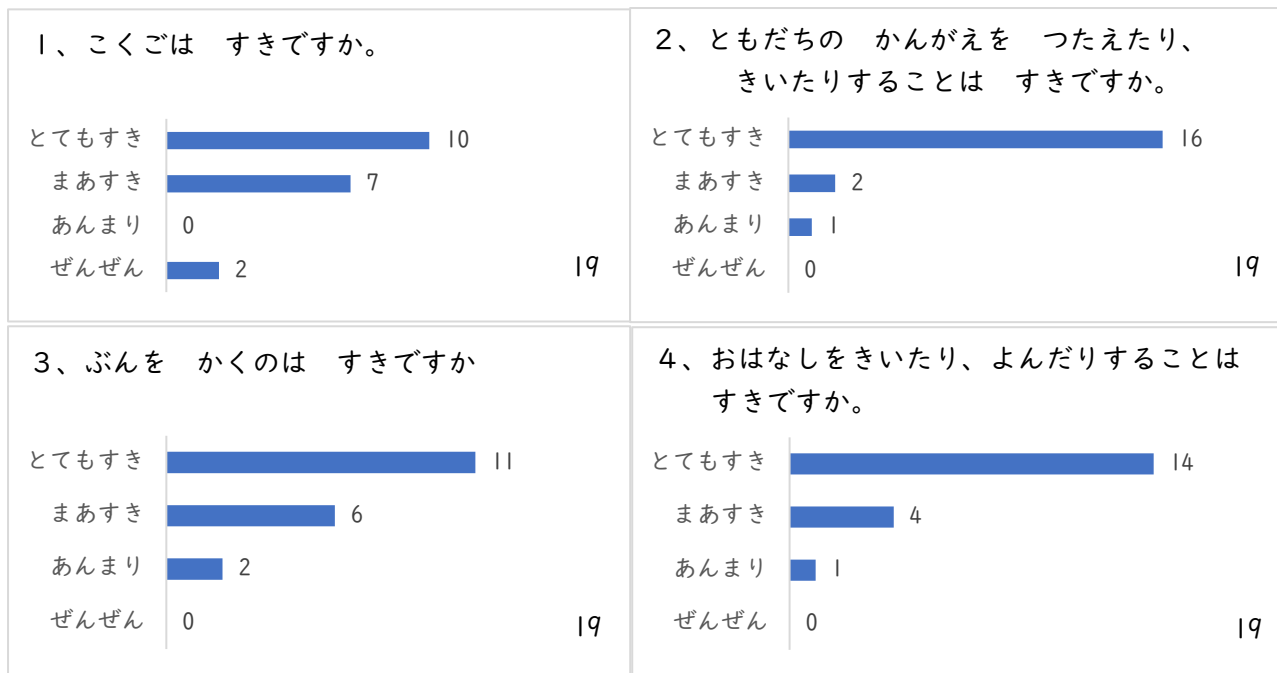
入学当初は単語や最後まで言い切らずに相手に察してもらおうとする児童が多かったが、日常の指導や、(2)②Aの通り、国語科での指導を重ねることで、よりよく相手に伝わるように話したり、聞いたりできるようになってきた。ペアや小グループでの対話や発表は、多くの児童が楽しみながら取り組んでいる。

また、1学期に全ての平仮名を学び、文を書くことから、文章を書くことまで(2)②Aのとおり指導を行ってきた。多くの児童が、積極的に取り組んできたが、書字や読字に課題がある児童がいる。授業では、教師が支援を行ったり、本人が友達に尋ねたりして、学習に取り組む姿も見られた。

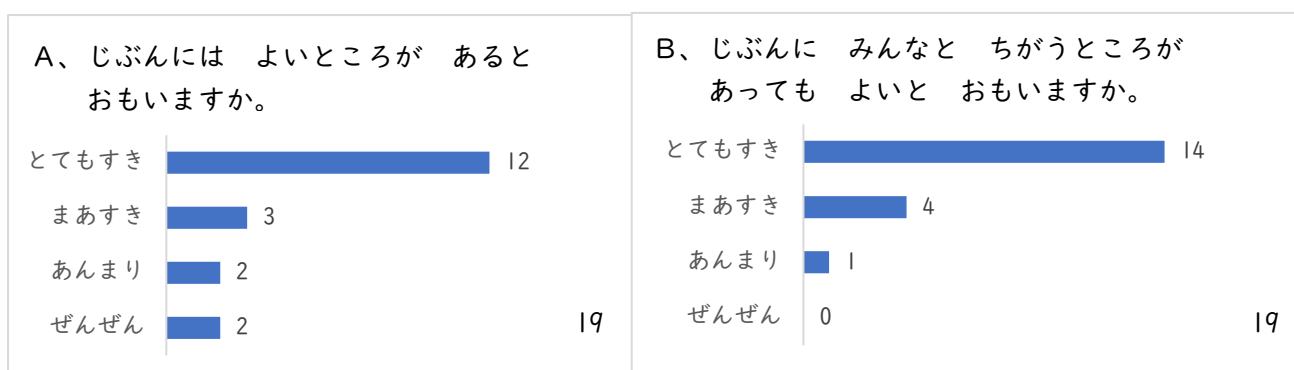
さらに、国語や人権に関する実態を詳しく調べるため、以下のとおりアンケートを実施した。

# 1年1組

【国語に関するアンケート】（Google formによる 令和7年7月15日実施 n=19）



【自尊感情アンケート】（紙面による 令和7年7月4日実施 n=19）



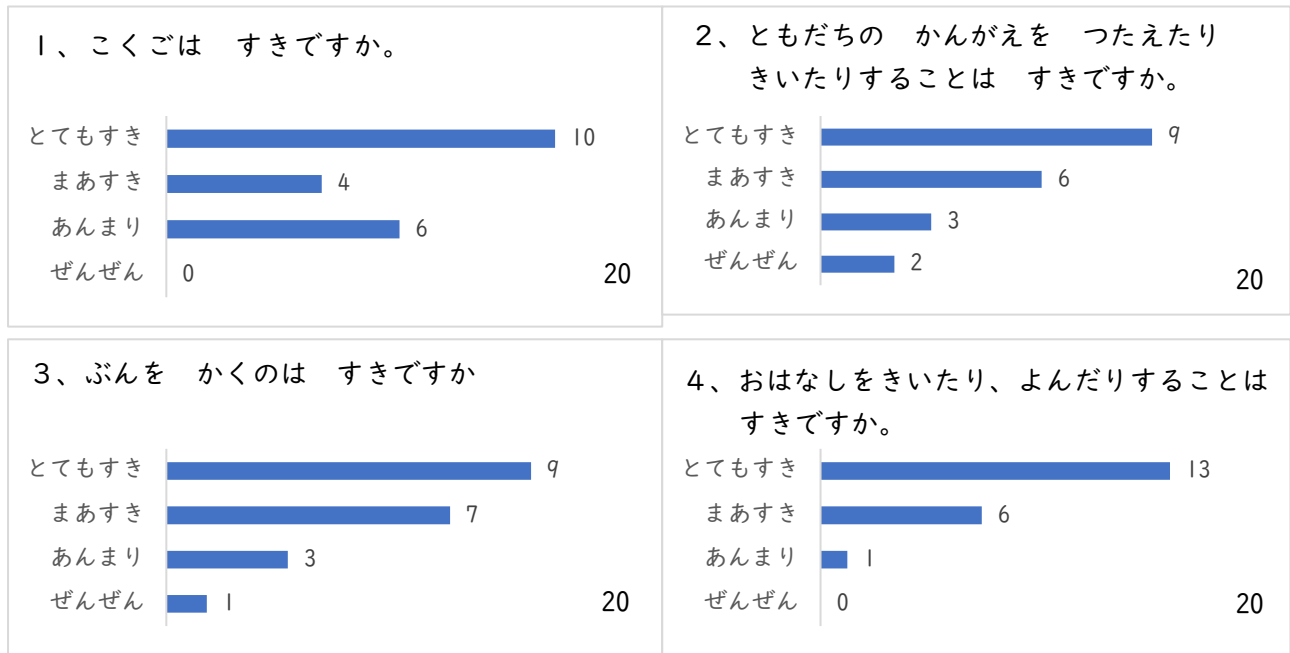
## ～1組考察～

国語に関するアンケートでは、全般的に低学年ならではの前向き、積極的な結果が見られた。1から、「国語」という教科に否定的な感情をもつ児童が約1割いることが分かる。この2名は、平仮名書字・読字に課題があり、それを自覚している児童である。前述の通り、教師が考えを聞き取ってゆっくり1文字ずつ書かせている。そのためか、3に見られるように文を書くこと自体は、全くの否定的感情ではない様子である。適切な支援や指導の工夫が重要である。

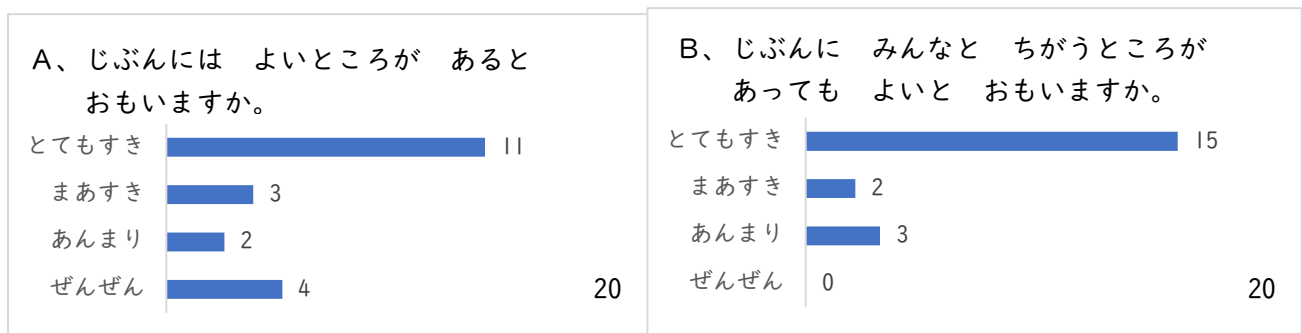
自尊感情アンケートでは、自分によりことがあると思っている児童が他の項目よりも多い。友達との協働学習を通して、自己有用感や自己肯定感をさらに高めたい。

## 1年2組

【国語に関するアンケート】(Google formによる 令和7年7月15日実施 n=20)



【自尊感情アンケート】(紙面による 令和7年7月4日実施 n=20)



### ～2組考察～

国語に関するアンケートでは、話を聞いたり読んだりすることが好きな児童がとても多い反面、国語が好きな児童は半数ほどであり、あまり好きではない児童が全体の1/4ほどいることが分かった。あまり好きではない理由として意見や考えを伝えたり聞いたりすることや文を書くことが好きではないからと答えている児童がほとんどであり、その中の半数ほどが書字・読字に課題がある児童である。そのため、付箋を使用したり、教科書を読むのではなく対話活動にしたりするなど、書字・読字活動における工夫をする。

自尊感情アンケートでは、自分に良いところがないと思っている児童が目立つ。自分の個性の伸長については、肯定的である。対話を通して互いに考えていなかった考えを出し合い、創作を良いものにする経験を通して、自己肯定感・有用感につなげたい。

## (2) 単元について

ア本単元の学習指導要領の位置付け

学習指導要領において本単元の学習事項は、

「A 話すこと・聞くこと、エ構造と内容の把握、オ話合いの進め方の検討」、

「B 書くこと、オ共有」に位置付けられる。「絵からお話を想像する」という言語活動に向けて、話し手が知らせたいことは何かを考えながら聞く力、また自分が聞きたいことを落とさずに聞く力を身に付けさせる。そのために、話し手は聞き手に考えを伝え、聞き手は質問や感想を加えて話をつなげていくよう指導していく。

## イ教材と系統性

### A 話すこと・聞くことの系統性

学年	題材名	めあて
1年生	よく きいて はなそう	・話している友達を見て、終わりまで聞く。
	わけを はなそう	・自分の考えを、理由とともに話す。
	すきな こと、なあに	・好きなことを、理由とともに友達に話す。
	みんなに しらせよう	・声の大きさや速さに気をつけて話す。
	どんな おはなしが できるかな	・友達の話をよく聞き、つながるように会話する。
	くわしく きこう	・友達の話を聞き、詳しく知りたいことを質問する。
	これは なんでしょう	・発言を確かめたり、質問したりしながら、話し合う。
2年生	ことばのじゅんびうんどう	・互いに話を聞き合って、行動する。
	だいじなことをおとさないように聞こう	・大事な事柄を落とさないように聞く。

### B 書くことの系統性

学年	題材名	めあて
1年生	ぶんを つくろう	・話している友達を見て、終わりまで聞く。
	おおきく なった	・自分の考えを、理由とともに話す。
	すきな こと、なあに	・好きなことを、理由とともに友達に話す。
	こんな ことが あったよ	・身近な出来事とそれについて思ったことを、三文程度で書く。
	まちがいを なおそう	・声の大きさや速さに気をつけて話す。
	しらせたいな、見せたいな	・対象を詳しく観察し、気づいたことを人に知らせる文章を書く。
	じどう車ずかんを つくろう	・説明の順序に気をつけて書く。
	どんな おはなしが できるかな	・友達の話をよく聞き、つながるように会話する。
	てがみで しらせよう	・したことや思ったことなど、知らせたいことを書く。 ・書いた後に、間違いがないか読み返す。
	いい こと いっぱい、一年生	・まとまりに分けて、出来事とそれについて思ったことを書く。
2年生	たのしく かこう	・絵を見て、文を書く。
	思い出して 書こう	・日記を書く。

## ウ指導観

本単元では、「絵からお話を想像する」という言語活動に向けて、互いの話に関心をもち、質問や感想を伝え合うことで話をつなぐ対話活動や、考えたことを順を追って書く活動を行う。日頃から自分の話や考えを他者に伝えたいという児童や、様子や気持ちを考えることに意欲的な児童が多数いる。本単元の学習でも、聞いたり話したりすることを通して、お互いの内容や表現のよいところを見付けられるようにする。

## 5 人権教育の視点

場面の様子や人物の話したこと、行動などを考え、伝え合う交流活動を通して、想像力や伝え合う力を養う。

## 6 研究主題に迫るための手だて

○単元を通して育てたい言語能力と取り入れる言語活動

【想像する力】

- ・友達に質問し、お話を書くために、活動の参考になる動画を見せる。
- ・いつでも見返せるようにするため、動物になりきって二人で会話する様子を動画で撮る。
- ・動画を見ながら、言葉を付け足し、言い方を工夫するために、付箋を用いる。

【自分の考えを伝え合う力】

- ・書くことの楽しさを味わい、またお話を書こうとするために、互いに、作ったお話のよさを言葉で伝え合う。

## 7 学習指導計画・評価計画（全7時間扱い） 本時3/6

時	○学 習 活 動	*人権教育に関わる留意点等 ◆研究主題に迫るための手だて ◇評価
1	○「どうぶつになったつもりでともだちとはなして、おはなしをつくろう」という学習課題を知り、活動の見通しをもつ。	◆動物が出てくる物語を読んだり、読み聞かせをしてもらったりした経験を出し合う。どのような物語だったかも共有し、自分たちでお話を作るという活動の見通しをもつ。 *これまで触れてきた動物が出てくる物語を、友達同士で共有するために対話する。 ◇学習課題を理解し、見通しをもって学習に取り組もうとしている。  <思-①>（発言・観察）
2	○教科書の文章・挿絵を参考にしながら、物語の登場人物を決める。	◆どんな動物が出ているか、また、それぞれの動物が何をしているかを見て、誰を登場させるかを話し合って役割を決める。 *「誰が、何をしたか」という主語と述語に気を付けるために場面絵を使う。 ◇文の中における主語と述語の関係に気付いている。  <知-②>（記述）
③ 本 時	○動物になったつもりで会話をする。	◆挿絵の動物になりきって、二人で会話する。 *会話を振り返ることができるように、動作化した様子を端末で動画撮影する。 *二人で、もっとよい会話にできるように話し合い、何度か動画撮影してよいことにする。 ◇「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。  <思-②>（観察・記述）  ◇物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。  <態-①>（観察・発言）

4	○メモを書く。	<p>◆動物たちが話した会話文や動物の行動や様子の文を付箋に書き、並べ直す。</p> <p>＊地の文と会話文を分けるために、別色の付箋紙に書くようにする。</p> <p>◇物語を完成させるという見通しをもち、進んで付箋にメモを書いている。</p> <p style="text-align: right;">＜態-①＞（観察・発言）</p> <p>◇文の中における主語と述語との関係に気付いている。</p> <p style="text-align: right;">＜知-②＞（記述）</p>
5	○お話を書く。	<p>＊教科書のお話を参考にしながら、友達と話した内容を基にお話を考える。</p> <p>＊会話文にはかぎ（「」）を使って書くことを確認する。</p> <p>◆友達と話し合いながら、言葉を付け足したり、工夫したりする。</p> <p>◇句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。</p> <p style="text-align: right;">＜知-①＞（記述）</p> <p>◇物語を完成させるという見通しをもち、進んでお話を書こうとしている。</p> <p style="text-align: right;">＜態-①＞（観察・発言）</p>
6	○書いたお話を読み合い、感想を交流する。	<p>＊前時までのペアとは別のペアを設定する。</p> <p>＊教科書p43の「たいせつ」で、交流の観点（いいな、おもしろいなと思ったことを伝える）を確認する。</p> <p>＊物語を考えた思いを伝え合えるようにするために、質問や感想タイムを設ける。</p> <p>◆友達の作ったお話のよさを言葉で伝え合い、話題に沿った会話をつなげる。</p> <p>◇「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。</p> <p style="text-align: right;">＜思-③＞（観察・発言）</p> <p>◇進んで書くことの楽しさを味わい、またお話を書いてみようとしている。</p> <p style="text-align: right;">＜態-①＞（観察・発言）</p>

## 8 本時の指導（3／6）

### （1）本時の目標

想像力をはたらかせ動物になったつもりで、会話することができる。

### （2）展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	*人権教育に関わる留意点等	◇評価【評価方法】 ◆研究主題に迫るための手だて
導入	○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	*前時で、教科書のどの動物に印を付けたか、確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">           どうぶつに になったつもりで、おはなしをしよう。         </div>		
	・私は、パンダになって楽器のことを話します。		
展開	○大切なことを確認し、活動の参考になる動画を全体で視聴する。 ・友達が話し終わるまで待っていた。 ・これから動物たちが何をしようとするのか、話していたね。 ・私にもできそう。  ○ペアになり、動物になったつもりで話をする。 ・からすさん、さかなつりにいこう。 ・いいよ、それならこの地図にかいてある池はどうか。 ・いいね、いってみよう。	*話をつなげるために、相手の言ったことをよく聞くことが大切であることを確かめるために、p 41の「たいせつ」を音読する。 *動画を視聴した後は、どのようなことに気を付けていたのかを確認する。  *タブレットの動画機能を使い、会話を録画するようにする。	◆挿絵の動物になりきって、二人で会話する。 ◇「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 <思-②>【観察・記述】 ◇物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。 <態-①>【観察・発言】
まとめ	○本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	*次回はお話を作ることを告げる。	

どんな おはなしが  
できるかな

たいせつ  
ともだちが いったことを  
よくきいて、  
はなしを つなげましょう。

かつどう

① タブレットで  
ろくがする。 かいわを

② ろくがを みて、  
もっと よくなるように  
はなしあう。

③ はなしあったことを もとに  
もういちど かいわを  
ろくがする。